【中学校編】

道徳の時間での発問のねらいと具体例

生徒一人一人に考え・議論させるためには，多様な“問い”が必要です。問いかけられてすぐに答えられるレベル，一人では難しいが数人集まって考えたら答えが出るかもしれないレベルなど，状況に応じて多様に準備しておくことが大切です。

発問内容は，どのように考えたら良いのかしら？基本的な発問があるのでしょうか。

指導過程にそって，基本的な発問を整理してみましょう。

導入では，ねらいに気付かせるもの，視点をそろえるものを考えます。

【例】事実や経験を問うもの

「〇〇したことがあるかな？」，「〇〇をどう思う？」

「どうして〇〇できなかったの？」，「〇〇ができたのはどんな理由から？」

展開では，資料中の人物に託して自分の思いや感じ方を語らせたり，自己を見つめて振り返らせたりするものを考えます。

【例】心情を問うもの

「どこに心を打たれたかな？」，「そのときの気持ちは？」

↓さらに深めて…

考えや理由，関連や判断を問うもの

「なぜ〇〇したのかな？」，「なぜ，そう考えるの？」

「そのとき，どんなことを考えていたのかな？」，「どうすればいいの？」

「本当にそれでいいのかな？」　など

【例】資料に描かれているテーマ（主題）を問うもの

「自分の心に正直になるってどういうことなの？」　など

資料から離れて，これまでの生徒の意見や考えをまとめるときには以下のような発問が考えられます。

【例】予想や原則を問うもの

「もし，自分だったらどうする？」，「この後，どうしたかな？」

「このことは，いつでも・どこでも・誰でもいいのかな？」　など

【例】自他の価値観を相対的に問うもの

「自分に足りなかった価値観は？」，「今後大事にしていきたい価値観は？」

発表の行き詰まりを解消し，話合いや思考を活性化させるときには以下のような発問が考えられます。

【例】　「なぜ，そう思ったの？」，「本当に，それで良かったのかな？」

「～さんの意見について考えてみよう」　など

こんな取組をしている先生がいらっしゃいますよ。

過程		学習活動	分	主な発問と予想される反応例	指導上の留意点
導入	意識化	1　桜島の良さなどについてのアンケート結果を紹介する。 2　本時の目標を確認する。 故郷に誇りをもって生きるとは、どういうことだろうか。	5 2		・アンケート結果を提示し，意識化を図る。
展開	焦点化	3　資料「一本の椿油」を読む。 4　私の心情の変化について考える。 ①　２年生になった心情の変化 ②　友達に言われたときの私の心情	9 7	（発問１） どうして，２年生になった私は，気持ちの変化が起きたのだろうか。 ・活動に慣れてきたから。 ・怠けたい気持ちが強くなった。 ・他の誰かがやってくれるだろう。 （発問２） 登校が遅れた時の友達からの言葉に対して，私はどう思っただろうか。 ・そこまで言わなくてもいいのに。 ・遅れたのは私だから仕方がない。 ・なんで，怒っているのか分からない	・どの場面がもっとも印象に残ったか。また，どの場面が一番問題か。の視点で線を引かせる。 ・私の弱い部分の気持ちが少しずつ出てきたことを確認する。 ・自分の行動も，周囲のせいにしている自分がいることに気付かせる。 ・故郷への誇りをもたずに活動していることにも気付かせる。
展開	追求・深化	5　おじいちゃんに言われた時の私の心情を考える。（発問のみ） 6「誇り」の言葉の意味について考える。	3 6	（発問３） おじいちゃんに言われた言葉を聞いたとき，私はどんな気持ちだったと思いますか。 ・今まで，桜島のことについて深く考えたことがなかった。 （発問４） 故郷に誇りをもって生きるとは，どういうことだと思いますか。 ・桜島の素晴らしい自然を，他の人に伝えることができる。 ・桜島の特産品を紹介することができる。 ・先人の生き方や考え方を，引き継ぐことができる。 ・桜島に住む人々の心の温かさを紹介できる。	・今までの椿の実学習において，故郷への思いを考えずに活動していたことに気付かせる。 ・伝統を受け継ぐことは，物や自然だけではなく，人のつながりや人情の豊かさでもあることに気付かせる。
展開	自覚化	7　今の自分に置き換えて考える。 ①　故郷に誇りをもって生きていると言えるか，考える。 ②　どんな気持ちをもつことが必要なのか考える。	8	（発問５） これから，私たちはどんな気持ちをもつことが大切だと思いますか。 ・周りの人に感謝する気持ち ・伝統を受け継いでいこうとする気持ち ・桜島のことについて，学び知ろうとする気持ち	・主人公の私を自分に置き換えて考えさせることで，今の自分に足りないものに気付かせる。 ・桜島の先人や今住んでいる方への感謝の気持ちをもつことが大切であることに気付かせる。
終末	意欲化	8　本時の感想を書いて発表する。 9　地域の方の桜島で生活する想いをまとめたＶＴＲを見る。	6 4	《学年別の感想の反応例》 （１年） ・椿の実学習を一生懸命がんばって，桜島について学びたい。 （３年） ・桜島を離れても，桜島の自然や人とのつながりを大切にしていきたい。	・感想を発表し，多様な価値観を深めさせる。 ・地域の方の桜島への想いをまとめたＶＴＲを見て，さらに桜島への愛着をもたせる。

発問は，生徒の実態に応じて工夫してみることが必要です。特に，中心となる発問については，対話活動を設定してじっくり考えさせ，生徒一人一人の多様な価値観を深め広げながら，本時の主題に迫る学びを求めていきましょう。

みんなでつくる「道徳の時間」の授業づくりについて

授業づくりについて，次のような悩みをよく聞きます・・・。

○　授業構想をどのような手順で進めていけばよいのか分かりません。
○　授業構想を練るのに，十分な時間がとれません。
○　授業を観る視点がそれぞれなので，授業研究の際に問題の焦点化が図れません。

「道徳の時間」の授業づくりは難しいですね。その難しさをより楽しく，より効果的に進めていくためには，１人で考えないで職員全員一体になって授業をつくりあげていくことが大切です。

授業づくりには「基本的な手順」があります。

本来は，この「基本的な手順」にそって授業構想を練る必要がありますが，短い時間で職員が一緒に作りあげる方法を以下に紹介します。

1　指導内容を分析し，道徳的価値の構造図を作成する。
2　実態調査表を作成し，実態調査を実施する。
3　実態調査を分析する。
4　資料を分析する。
5　学習目標を決める。
6　具体的な指導内容の指導構想を立てる。
7　学習過程を構成する。
8　中心発問，補助発問の構想を立てる。
9　補助資料，学習形態，教師の働きかけ，板書計画を検討する。
10　学習指導案を作成する。

「本時の中心発問から始める授業デザインづくり研修」です。

「基本的な手順」の８→７→５の順での検討になります。主題に迫るためには生徒にじっくりと考えさせたい場面をどこに置くかが大変重要であり，それを決めることを第一にした方法です。

①　問題場面の焦点化を念頭にして資料を全員で読み合わせます。
②　中心場面を検討して決定します。
③　②で決定した場面で，発問とそれに対する生徒の反応を検討します。
④　本時の学習過程を検討します。
⑤　本時の学習目標を検討します。

※　検討の途中で検討をフィードバックしたり生徒の実態を確認したりする状況が生まれますが，そのようなやりとりが，みんなで知恵を出し合う楽しさです。

さらに，みんなで「道徳の時間」をつくりあげていくために，次のような取組もありますよ。

(1) 道徳用教材を整備し，活用の充実に取り組んでいます。

道徳の時間に活用する学習プリント（ワークシート）や指導計画，場面絵，映像ＤＶＤ等がいつでも閲覧，利用できるように資料を資料室や職員室にコーナーを設けて，学年ごとに全学級分を保存しています。また，学習プリントや指導計画については，授業者が自由に改善しながら活用できるように，データサーバ上の共有フォルダにも保管しています。指導計画は，実際に授業を行った上で，改善点を朱書きしておくなどして，職員間で情報を共有しておくと，効率的に授業改善を進めることもできますよ。

(2) 道徳用教材の使用に生徒アンケートを生かしています。

道徳の時間で活用した教材については，その教材を活用して行った授業終了後に，生徒にアンケートを実施して，教材の評価（４段階）を受けています。その結果から，３．０以下となった教材については，その後使用せず，３．０超３．５以下となった教材については，使用しないか，あるいは見直しをして，その後使用するようにしています。

(3) 授業の毎時間を研修として捉え，充実させています。

ア　授業を，２名のティーム・ティーチング（例えば，学級担任と学級副担任でペアを組み，学級担任がＴ１，学級副担任がＴ２となる）で行い，授業での生徒の様子や発言内容，授業後の感想等から，道徳の時間のねらいが十分達成できたかどうかを評価し合い，授業改善に役立てています。

イ　道徳の時間は，すべての教員が自由に参観できる体制をつくり，道徳の時間の指導について研修できるようにしています。また，すべての学級で道徳の授業を公開し，保護者や地域の方々にも授業を参観してもらっています。参観後は，アンケートを実施し，その後の授業に活かしています。

道徳科における指導体制の工夫

指導体制による授業の工夫とは

道徳科は，主として生徒をよく理解している学級担任が計画的に進めるものであるが，学校の道徳教育の目標の達成に向けて，学校や学年として一体的に進めるものでなくてはならない。そのために，指導に際して全教師が協力し合う指導体制を充実することが大切になる。

（平成 27 年中学校学習指導要領解説　特別の教科 道徳編）

道徳科の指導体制を充実するための方策としては，全てを学級担任任せにするのではなく，特に効果的と考えられる場合は，道徳科における実際の指導において他の教師などの協力を得ることが大切ですね。

指導体制及び指導形態の工夫Q& A

道徳の授業を全職員で協力して行うためにはどのような指導体制の工夫をすればいいのでしょうか？

校長や教頭などの参加による指導，他の教職員とのティーム・ティーチングが指導体制の工夫として考えられます。（取組１）

全職員で道徳の授業の研修を深めるための指導体制の工夫はどうすればいいのでしょうか？

学年道徳（大規模校）や学校道徳（小規模校）を実施し，全職員で教材研究を行います。また，実際の授業に関わることで授業の改善点では，多様な意見で研修を深めることができます。

（取組２）

授業の反省を生かして，同じ内容の授業を他の学級でも授業をしてみたいのですが，いいのでしょうか？

１つの教材で授業できるのは，毎年１回のみでなかなか反省点を生かして授業改善を行うのが難しい。同じ教材で学級を変えて複数回できるような計画をしてみましょう。（取組３）

こんな取組をしている先生がいらっしゃいますよ。

取組１　ＴＴによる授業の工夫

学級担任が中心となって授業を進めながら，校長や教頭，養護教諭や栄養教諭等学級担任以外の教師との TT を行うことが考えられる。

指導に当たっては，Ｔ２の教師が板書を行うだけの役割にならないように，TT 指導のねらいや役割分担などについて，共通理解を図ることが大切である。

【TT による授業の効果】

○　役割分担をしながら協働することにより，より多くの児童生徒の表情や雰囲気を捉えて，効果的に意見を引き出すことができる。

○　例えば，Ｔ１の発問に対する児童生徒の反応を２人で見取りながら，T2 が板書し，Ｔ１は生徒へのさらなる問いかけを行うことで，児童生徒の反応をうまく生かしながら発問や意見を引き出すことができる。

○　２人で机間巡視を行い，児童生徒の考えを把握するとともに，意図的指名に役立てることができる。

○　グループ等での話合い活動において，助言や切り返しを行い，児童生徒の考えを深める機会を多く持つことができる。

取組２　学年道徳による授業の工夫

学年の道徳担当が中心となって授業を進めながら，それぞれの学級担任が学級の一人一人の意見を引き出しながら，授業を進める。

指導に当たっては，学年の全職員で教材研究を行い，授業の流れやポイントなどを共通理解して，学級の生徒へ発問を行うことや多くの人数の中で少数の意見をしっかりと引き出すことが大切である。

【学年道徳による授業の効果】

○　モラルジレンマ資料による討論形式で行うことにより，学級での討論以上に多様な意見を引き出したり，友達の意見を参考にしながら，自分の価値に対する考え方を確認させたりすることができる。

○　学級での意見交換を行うことで自分の意見の確認ができ，学年全体で討論を行う際に自信をもち発言することができた。

○　学年の職員で教材研究を繰り返し行うことで，職員での研修が深まり道徳の授業作りの意識が変化した。

取組３　学級担任以外による授業の工夫

通常の道徳の時間は，学級担任が中心に授業を行うが，時間をかけて教材研究をしていても，生徒の考えを上手に引き出せなかったりすることも多い。また，副担任など道徳の授業に関わりたくてもなかなか授業を行う機会が少ないことが考えられる。

指導に当たっては，一人の教師が複数の学級で同じ資料を使い授業を行い，各授業で出てきた成果や課題をもとに，授業改善を行い指導力の向上につなげることができる。

	１週目	２週目	３週目	４週目
Ａ教諭	１　組	２　組	３　組	４　組
Ｂ教諭	２　組	３　組	４　組	１　組
Ｃ教諭	３　組	４　組	１　組	２　組
Ｄ教諭	４　組	１　組	２　組	３　組

【学級担任以外による授業の効果】

○　重点目標の内容項目の学年で共通理解して授業を行うことで，道徳教育の充実を図ることができる。

○　担任以外の授業者により，通常とは違った意見や考え方などを引き出すことができる。

○　同じ年度に繰り返し，同教材で授業を行うことで改善点の修正を確実に行い指導力の向上につなげることができる。

○　多くの教師の授業を学年間で参観することで，教師間の研修を深めることができる。

中学校における道徳教育実践例

道徳の授業を担当していないけれど，道徳教育にどう関われば いいのだろうか・・・

いえいえ，「道徳の時間」だけが，道徳教育ではないですよね。

道徳教育は，学校や生徒の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために，特別な教科である道徳はもとより，各教科，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行うことを基本として，あらゆる教育活動を通じて，適切に行われなくてはならない。

（中学校学習指導要領　特別の教科　道徳編より）

「道徳の時間」以外にも部活動や生徒会活動，学校行事など多くの場面で道徳教育を行っていますね。

部活動における実践例

重点とする内容項目	学習内容
○自由と責任	○練習や活動に休まず参加する
○遵法精神・公徳心	○競技のルールをしっかり守ってプレーする
○克己と強い意志	○最後まであきらめずに取り組む
○相互理解・寛容	○部員それぞれの立場や個性を認め合い，目標に向かって協力して取り組む
○友情・信頼	○共に活動する仲間を信頼し，お互いを高め合う
○感謝	○活動に対して協力してくれる人々に感謝する
○礼儀	○あいさつや言葉遣いなどしっかりとする

生徒会活動における実践例

重点とする内容項目	学習内容
○よりよい学校生活	○新１年生を迎え，新入生歓迎会を通して中学校生活をよりよいものとしていく
○自主・自律	○生徒会を中心に生徒総会を行い，生徒の自主性や自律の精神を養う
○思いやり	○募金活動を通して，人間愛の精神を深める
○集団生活の充実	○設営コンクール等により，学級への帰属意識を高める
○公徳心	○生徒会活動を充実させ，規律ある学校にする
○相互理解・寛容	○お互いの立場や意見を尊重し，建設的な話合い活動を行う

体育大会における実践例

重点とする内容項目	学習内容
○節度・節制	○日頃の体育活動の成果を発揮し，心身の健康の増進を図る
○自主・自律	○生徒会を中心に自主的な運営や活動を進める
○公徳心	○種目のルールをしっかり守って競技する
○集団生活の充実	○学級や所属する組の中で，自分の役割と責任を果たす
○克己と強い意志	○応援団員を中心に目標に向かって，最後まで取り組む
○思いやり	○競技や役員活動など，互いに励まし協力して活動する
○公正・公平	○審判や記録など正義をもとに誰に対しても公平に行う

文化祭における実践例

重点とする内容項目	学習内容
○相互理解・寛容	○発表を通して，お互いの個性やよさを認め合う
○自主・自律	○生徒会を中心に自主的な運営や活動を進める
○よりよい学校生活	○学級など団体の一員として，自分の役割に責任をもつ
○感動	○様々な発表に対して，そのよさに気付き感動する心を養う
○克己と強い意志	○活動に目標をもって，最後まであきらめずに取り組む
○郷土を愛する態度	○郷土の文化や歴史にふれる発表を通して，郷土を愛する態度を養う
○公徳心	○お互いの発表をしっかりとした態度で鑑賞する

学校の日常生活における実践例

重点とする内容項目	学習内容
○節度・節制	○遅刻せずに登校し，学校生活を安全に過ごす
○友情・信頼	○友達とお互いに励まし助け合いながら学習する
○公徳心	○給食時間は，しっかり食事のマナーを守る
○勤労，役割責任	○作業や係活動の役割をしっかりと行う
○集団生活の充実	○みんなで使う教室をしっかりきれいに掃除する
○向上心	○一日の活動を振り返り，次の日の目標をもつ

それぞれの活動には道徳的に意味がありますが，単に“点”で終わったらもったいないです。活動と活動をつないで“線”とし，全ての活動をつないで“面”にできるような取組を考えてみましょう。